



平成 26 年 5 月 2 日

各 位

会 社 名 日特エンジニアリング株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 近藤 進 茂
 (コード番号 6145)

問 い 合 わ せ 先
 役 職 ・ 氏 名 管 理 本 部 長 磯 田 博
 電 話 0 4 8 - 8 3 7 - 2 0 1 1

業績予想の修正に関するお知らせ

平成25年11月8日に公表した平成26年3月期通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成 26 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	百万円 16,500	百万円 1,300	百万円 1,500	百万円 1,000	円銭 55.34
今回修正 (B)	14,400	700	800	640	35.42
増減額 (B-A)	△2,100	△600	△700	△360	
増減率 (%)	△12.7	△46.2	△46.7	△36.0	
ご参考 (前期実績) (平成 25 年 3 月期)	19,123	2,663	2,785	936	51.84

2. 平成 26 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	百万円 14,700	百万円 950	百万円 600	円銭 33.20
今回修正 (B)	12,600	495	425	23.52
増減額 (B-A)	△2,100	△455	△175	
増減率 (%)	△14.3	△47.9	△29.2	
ご参考 (前期実績) (平成 25 年 3 月期)	17,100	2,115	461	25.57

3. 修正理由

(1) 通期連結業績予想

主力である巻線機事業のマーケットにおいて、自動車業界では、好調な自動車生産、完成車メーカーのみならずサプライヤーの生産拠点の新・増設のほか、燃費の改善や安全性の高度化に向けた設備投資が継続し、他方、情報通信業界では、スマートフォンなど端末の多機能化、高機能化及び生産の自動化需要が増加したものの、急速な普及のピークは過ぎ、大量設備投資は縮小しました。結果として、高度化、多機能化、高機能化と生産の自動化に向けた研究開発案件の比率が上昇し、利益率が低下しました。また、AV・家電業界では、省エネ家電向け量産設備投資での慎重姿勢が継続し、売上げが減少しました。

(2) 通期個別業績予想

売上高、利益とも連結の理由と同様となります。

* 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績見通しは、当社が現時点で入手している情報及び合理的と判断した一定の前提に基づいたものであり、実際の業績は今後のさまざまな要因によって、業績予想数値とは異なる可能性があります。

以 上